

憲法しんぶん速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

第212号

2008年11月4日

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp
HPサイト <http://www.kenpoukaigi.gr.jp/>

Tel 03-3261-9007

田母神幕僚長の侵略戦争美化・憲法攻撃論文に憲法会議が談話

田母神航空幕僚長の侵略戦争美化・憲法攻撃の論文について

2008年11月1日 憲法会議事務局長 長谷川英俊
平井 正

1、航空自衛隊トップの田母神俊雄・航空幕僚長が「我が国が侵略国家だったというのは濡れ衣だ」と主張する論文を書き、アパブループの懸賞論文に応募していた。そこでは、日本の侵略戦争や植民地支配について「侵略は濡れ衣」と正当化し、集团的自衛権の行使を禁じる現行憲法を「東京裁判のマイノリティコントロール」などと攻撃している。

これに対し、政府は10月31日、この論文は侵略と植民地支配を謝罪した村山談話を逸脱するとして田母神氏を更迭した。

2、しかし、ことは更迭で済む問題ではない。田母神氏はこれまでも、イラクでの空自の活動は違憲・違法とした名古屋高裁判決に対し「こんな関係ねー」と切り捨てるなど憲法無視の発言を繰り返し、世論の厳しい批判を浴びていた。にもかかわらず、政府・防衛省は幕僚長に据え続けていた。

このことは麻生首相自身が、日本の侵略戦争を正当化する「靖国」派の日本会議国会議員懇談会の特別顧問を務め、日本会議議連の役員を多数入閣させて「改憲タカ派内閣」を発足させたことと深く結び付いている。

現に麻生首相は、就任直後の国連演説で、憲法違反の米軍等への給油活動の延長を表明し、現地の記者会見では、解釈改憲による集团的自衛権行使に踏み出すことを公然と語った。

しかも自民党は、今行われている新テロ特措法の延長の企てに続き、民主党と連携して、解釈改憲による集团的自衛権行使、海外での武器使用の自由化をはかり、日本をアメリカと共に戦争をする国にしようとしている。今回の論文はこうした動きを背景に生まれたものに他ならない。

3、今年5月の読売新聞世論調査のように海外派兵と改憲に反対する世論は確実に前進している。また31日には「沖縄ノト訴訟」で、大阪高裁が「集団自決」への軍関与を認め、歴史のすり替えを退ける判決を下した。

今回の論文は、こうした世論や日本社会の動きに挑戦するものであり、戦前の日本の侵略戦争が「軍部の独走」によって拡大していったとされることをも想起させるものである。自衛隊幹部が公然と憲法を非難するような言動をしていることはいささかも軽視できない

憲法会議は、田母神問題の国会での徹底審議を求め、侵略戦争の正当化、改憲派の巻き返しを許さず、改憲大連立の根を断ちきるために全力をあげる決意である。 以上

■ 新テロ特参考人質疑・中村哲氏、他 傍聴行動 5日13時～17時
■ 議面集会 5日12時15分～